

株主の皆様へ

# J F E だより

Winter

第24期 中間

2025年4月1日▶9月30日

## 成長事業への選択と集中



株主の皆様には平素よりJFEグループへの温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当社を取り巻く事業環境は、米国の通商政策や中国経済の停滞継続、建設分野を中心とした人手不足による影響等もあり、厳しい状況にあります。

こうした環境下においても足元の収益回復にグループ一丸となって取り組むとともに、「JFEビジョン2035」の実現に向けて、第8次中期経営計画の軸となる「国内のスリムで強靱な体制の再構築」と「海外の成長分野・地域への積極的な投資を含めた事業拡大」を着実に進めてまいります。

代表取締役社長 (CEO) **北野 嘉久**



## 2025年度上期の業績概要

鉄鋼事業においては、継続的な販売価格の改善やコスト削減に取り組んだものの、鋼材価格の下落や為替影響（前年同期比円高）等により、セグメント利益<sup>(注)</sup>は前年同期比減益となる53億円の損失となりました。

エンジニアリング事業においては、受注済プロジェクトを着実に遂行した結果、セグメント利益は前年同期比増益の126億円となりました。

商社事業においては、国内外での鋼材市況下落等によ

り、セグメント利益は前年同期比減益となる219億円となりました。

以上の結果、事業利益<sup>(注)</sup>は457億円（前年同期比▲361億円）、親会社の所有者に帰属する中間利益は266億円（前年同期比▲158億円）となりました。

（注）セグメント利益：

事業利益に金融損益を含めた、各セグメントの業績の評価指標です。

事業利益：

税引前利益から金融損益および金額に重要性のある一過性の性格を持つ項目を除いた利益であり、当社連結業績の代表的指標です。



JFE ホールディングス 株式会社

JFE Group

## 2025年度の業績見通し

2025年度の連結業績は、鉄鋼事業を中心に足元の厳しい事業環境を受けて、事業利益1,400億円(前年度比+47億円)、親会社の所有者に帰属する当期利益750億円(前年度比▲168億円)となる見込みです。

鉄鋼事業は、国内では自動車、建産機分野への米国関税の及ぼす影響について引き続き注視が必要です。また、建設分野では、建設コスト上昇・人手不足の影響により需要低迷が続いています。海外では世界的な需要低迷と供給過剰が続いており、需要の回復が見通せない状況です。また、中国の内需低迷による供給過剰と輸出増もあり、アジア圏を中心に厳しい需給状況は継続すると想定しています。こうしたなか、鉄鋼事業の通期のセグメント利

益は、400億円(前年度比+37億円)、棚卸資産評価差等の一過性要因の影響を除いた実力損益は900億円(前年度比▲473億円)となる見通しです。

エンジニアリング事業は、Waste to Resource分野、カーボンニュートラル分野(洋上風力等)において、前年度からの受注拡大を見込んでおり、通期のセグメント利益は200億円(前年度比+7億円)となる見通しです。

商社事業は、国内の建設需要の低迷継続、通商施策による輸出取引減に加え、国内外での市況下落により、通期のセグメント利益は450億円(前年度比▲29億円)となる見通しです。

以上により、2025年度のグループ連結の事業利益は1,400億円、実力損益は1,900億円となる見通しです。

厳しい事業環境ではありますが、中間配当につきましては、本年8月に公表のとおり、1株当たり40円とさせていただきます。年間配当につきましては、第8次中期経営計画の方針※どおり、1株当たり80円とする予定です。

※配当性向30%程度、但し年間80円/株を下限とする。

## 中長期的な企業価値向上に向けて

冒頭で申し上げましたように、長期的に利益を拡大し、2035年の目指す姿である「JFEビジョン2035」を実現していくためには、第8次中期経営計画(以下、8次中期計画)の軸となる「国内のスリムで強靱な体制の再構築」と「海外の成長分野・地域への積極的な投資を含めた事業拡大」を着実に進めていく必要があります。<sup>※1</sup>

8次中期計画に基づく施策として、鉄鋼事業では、イン

ドの戦略的アライアンスパートナーであるJSW社と持分比率50:50で設立した方向性電磁鋼板の製造・販売会社2社(J2ES・J2ES Nashik)の製造能力を、2030年度までに年35万tへ大幅に拡張することを2025年8月に決定いたしました(投資額約1,200億円、うち当社負担約600億円)。

インドでは、経済の成長に伴う電力需要の増加により、変圧器の高効率化に寄与する方向性電磁鋼板の需要拡大が見込まれています。今回の製造能力拡張投資により、JSW社とともにインド国内唯一の方向性電磁鋼板一貫製造メーカーとして、インド市場における方向性電磁鋼板の圧倒的No.1サプライヤーの地位を確固たるものにしていきます。

鉄鋼事業では、8次中期計画の柱として、海外成長地域における有望な現地パートナーとのインサイダー型事業の推進とさらなる深化を掲げ、4,000億円規模の成長投資枠を設定しています。今回の拡張投資はその第1弾に位置付けています。

加えて、商社事業においても、重点地域である北米・豪州・インド・欧州を中心に、M&Aも含め加工・物流拠点を拡充するために、850億円規模の成長投資を実行する計画です。インサイダー化による現地完結型のビジネスの推進とともに、鉄鋼事業と連携した高付加価値商品のサプライチェーンマネジメント(SCM)の強化も進めていきます。

エンジニアリング事業においては、Waste to Resource分野、カーボンニュートラル分野を中心に様々なプロジェクトへの投資により、成長への種まきを進めています。2025年4月には、首都圏最大級のプラスチックリサイクル施設となる川崎スーパーソーティングセンターが川崎臨海部で本格稼働しました。本センターは、これまで焼却処理されていた使用済みプラスチックの高度選別を可能とし、回収されたプラスチックは特性に応じて、マテリアルリサイクル<sup>※2</sup>また



はケミカルリサイクル<sup>※3</sup>の原料として再資源化を図ります。処理能力は一般廃棄物・産業廃棄物を合わせ首都圏最大級の年間6万tとなります。今後増大する首都圏のプラスチックリサイクルニーズに対応し、脱炭素社会構築と循環型社会形成に貢献していきます。

「JFEビジョン2035」において重要な位置付けとなっている、カーボンニュートラル実現のための超革新技术開発については、政府の補助金交付決定を受けて、西日本製鉄所(倉敷地区)における革新電気炉(高効率・大型電気炉)の導入を2025年4月に正式決定しました。この革新電気炉は、世界最大規模の電気炉であり、既存大型電気炉では製造し得なかった電磁鋼板やハイテン鋼板などの高品質・高機能鋼材の大量供給体制を世界で初めて実現することを目指しています。現在、2028年度1Qの稼働に向けて建設を進めており、革新電気炉で製造した鋼材の供給により、国内グリーン鋼材市場でトップシェアを狙っていきます。以上、至近の主な取り組みの状況をご説明いたしました。当社グループは、「JFEビジョン2035」および「第8次中期経営計画」に基づき、引き続き、企業価値の持続的な向上に向けて資本コストや株価を意識した経営を推進してまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、特集記事(4～6ページ)でも各事業会社の取り組みの一部をご紹介しますのでぜひご覧ください。

※1 長期ビジョン「JFEビジョン2035」および「第8次中期経営計画」の概要につきましては、以下をご参照ください。

(<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/management/plan/>)

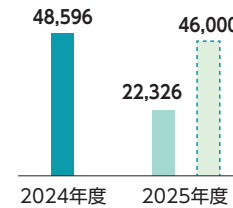
※2 使用済みプラスチックを異物除去・洗浄した後に、プラスチック製品の原料として再利用すること

※3 使用済みプラスチックを化学的に分解し、工業原材料として再利用すること

## 連結財務ハイライト

(単位：億円)

### 売上収益

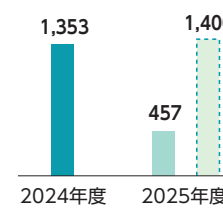


#### Point① 売上収益の事業別内訳

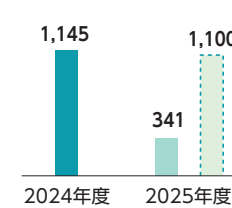
(単位：億円、△はマイナス)

	2024年度		2025年度	
	通期	上期	通期見通し	
鉄鋼事業	33,651	15,374	30,800	
エンジニアリング事業	5,698	2,870	6,000	
商社事業	14,385	6,475	13,500	
調整額	△5,139	△2,394	△4,300	

### 事業利益



### セグメント利益

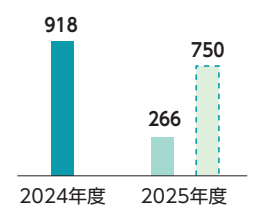


#### Point② セグメント利益の事業別内訳

(単位：億円)

	2024年度		2025年度	
	通期	上期	通期見通し	
鉄鋼事業	363	△53	400	
エンジニアリング事業	193	126	200	
商社事業	479	219	450	
調整額	108	48	50	

### 親会社の所有者に帰属する当期利益



	2024年度	2025年度	
	通期	通期見通し	増減

財務指標 (単位：％、△はマイナス)

ROS <sup>※1</sup>	2.8	3.0	0.2
ROA <sup>※2</sup>	2.4	2.4	0.0
ROE <sup>※3</sup>	3.7	3.0	△0.7
親会社所有者帰属持分比率	44.8	—	—
D/Eレシオ <sup>※4</sup>	54.3	58.1	3.8

財務状況 (単位：億円)

資産合計	56,476	—	—
資本合計	25,868	—	—

年間配当金 (1株あたり、△はマイナス)

	100円	80円	△20円
--	------	-----	------

※1 ROS = 事業利益 / 売上収益 ※2 ROA = 事業利益 / 資産合計

※3 ROE = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 親会社の所有者に帰属する持分

※4 D/Eレシオ = 有利子負債残高 / 親会社の所有者に帰属する持分 (格付評価上資本性を併せ持つ負債について、格付機関の評価により、資本に算入)



# 成長事業への選択と集中

## JFEグループの競争力ある事業に攻めの投融資を展開

JFEグループは、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて超革新技术の開発等に取り組んでおり、2035年度までに1兆円、2036～2050年度には4兆円規模のGHG削減関連投資が必要と試算しています。長期ビジョンである「JFEビジョン2035」では、これらの投資実行に必要な利益水準として、2035年度のセグメント利益目標を7,000億円と設定しました。

この利益水準を実現するため、JFEグループの強みを活かし、成長分野・地域において、競争優位性のある事業への積極的な投資を行っていきます。今回は、この取り組みの一部についてご紹介します。

### 鉄鋼事業

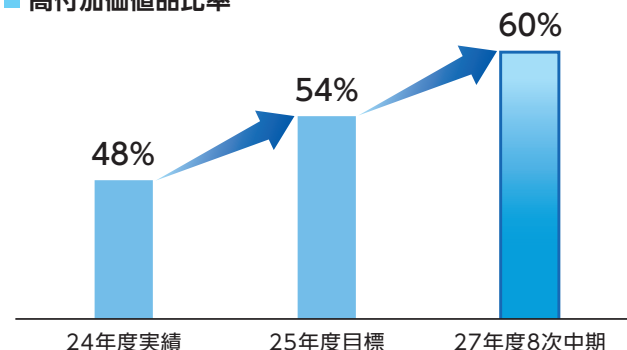
JFEスチール株式会社

## 自動車用超ハイテン鋼板の生産能力を増強

JFEスチールは、第7次中期経営計画より「量から質への転換」を進めており、2025年度から開始した第8次中期経営計画においても、同社の高い技術力を活かした高性能電磁鋼板、自動車用ハイテン鋼板、洋上風力厚板等の高付加価値品\*の販売比率を48%から60%に引き上げ、収益力の強化を図っていきます。

※ 高付加価値品：  
技術優位性を有し、お客様から付加価値を認められ、汎用品を上回る収益力を持つ商品(当社定義)

■ 高付加価値品比率



車体が軽いと  
燃費が向上!



▲ 自動車用ハイテン

同社では高付加価値品等の販売拡大を実現するため、国内の大規模成長投資を進めており、西日本製鉄所(福山地区)に溶融亜鉛めっきラインを新設することを決定しました(2028年10月稼働予定、投資額約700億円、生産能力36万t/年)。

ハイテン鋼板とは高い引張り強さを持つ鋼板で、中でも、引張り強さが980MPaを超えるものは超ハイテン鋼板と呼ばれ、従来と同じ強度を保ちながら、鋼板を薄く・軽くすることができます。超ハイテン鋼板の適用により、軽くて丈夫な自動車車体を実現でき、燃費向上と安全性向上につながります。特に、世界的に厳しくなる環境規制、衝突安

全基準への対応が必要な自動車業界では、車体の軽量化と高強度化のため、自動車用超ハイテン鋼板へのニーズが高まっています。JFEスチールの高い技術力を活かして、高品質で加工性の良い自動車用超ハイテン鋼板の製造能力を増強し、拡大する需要への対応と将来のさらなる高強度化・高機能化ニーズに対応していきます。

さらに超ハイテン鋼板の開発・生産だけでなく、これまでに培ってきた「材料技術」「車体設計技術」「成形/組立技術」をもとに、お客様のニーズに合ったソリューションをトータルに提案することで、次世代の自動車開発に貢献していきます。

#### ■ 国内の大規模成長投資

**2021年6月** 投資額 530億円  
倉敷新連続鋳造機建設稼働

**大単重厚板製造可能化**

洋上風力発電向け大単重厚板



**2024年9月** 投資額 490億円  
倉敷高級電磁NO※製造能力 増強1期(従来比2倍)

**2026年度** 予定 投資額 460億円  
倉敷高級電磁NO※製造能力 増強2期(従来比3倍)



モーターコア用電磁鋼板

**2028年度1Q** 予定 投資額 3,294億円  
倉敷革新電気炉稼働

**2028年10月** 予定 投資額 700億円  
福山溶融亜鉛めっきライン稼働

※ 電磁NO…無方向性電磁鋼板。主にEVや電気機器等のモーターや発電機に使われる。



## 商社事業

## JFE商事株式会社

# グローバルなサプライチェーン構築に向けて セルビア共和国における 電磁鋼板加工・販売会社が始動



▲ セルビアの電磁鋼板加工工場外観

JFE商事は、第8次中期経営計画にて海外市場での現地完結型ビジネスの推進を掲げ、北米・豪州・インド・欧州を中心に850億円規模の成長投資と、JFEスチールと連携した高性能電磁鋼板や自動車用ハイテン鋼板等の高付加価値品サプライチェーンマネジメントの強化を推進しています。

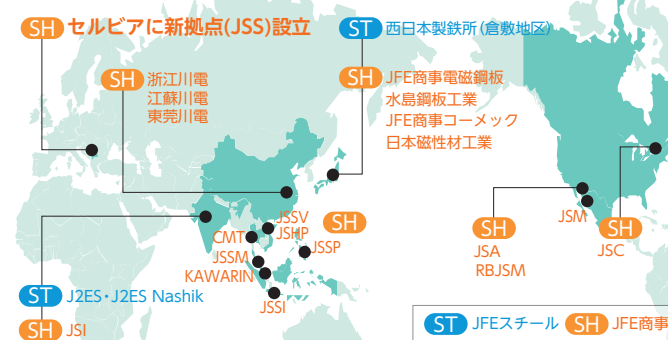
この一環として、JFE商事は海外における電磁鋼板の需要拡大に対応するため、国内で培った加工技術やノウハウを活用し、M&Aも取り入れながら、海外での加工・販売拠点の拡充を進めています。2024年には、欧州にあるセルビア共和国において、電磁鋼板加工販売会社JFE Shoji Serbia d.o.o. Indjija(以下、JSS)の起工式を開催しました。JSSは、JFE商事として欧州に初めて設置された電磁鋼板加工拠点です。カーボンニュートラル実現に向け、欧州での環境規制の強化を背景に、電動車の駆動用モーターや自動車の機能や利便性向上のための車載モーター等の需要拡大に対応することを目的としています。またセルビアは、バルカン半島のほぼ中央に位置し、多くの東欧諸国と国境を接しており、生産拠点としての優位性から近年多くの自動車関連メーカーが新規進出や能力増強を実施しています。

2025年4月に開催されたJSSの開所式には、セルビ

ア共和国財務大臣や在セルビア特命全権大使など約100名が参列し、財務大臣からは「この工場はセルビア共和国の自動車及び機械産業の発展に貢献し、アジア、ヨーロッパ、そしてバルカン半島を結ぶ重要な拠点になる。」というメッセージをいただきました。JFE商事は、欧州をはじめ成長市場において加工・販売拠点を積極的に拡充し、サプライチェーンマネジメントを強化することで、電磁鋼板のグローバル加工流通分野で、世界トップを目指します。

#### ■ 電磁鋼板のグローバルサプライチェーン展開

JFEスチールとJFE商事のシナジーにより、グローバルサプライチェーンを構築。



※ 電磁鋼板のインドにおける取り組みは海外事業戦略説明会でもご紹介しています。  
<https://www.jfe-holdings.co.jp/common/pdf/investor/library/otherbriefings/250808.pdf>

※ 今回、P8でご案内しているオンライン工場見学会では、JFE商事のグループ会社である国内の電磁鋼板加工販売拠点を取り上げる予定ですので、ぜひご参加ください。

フードロスの新たな価値創造に挑む

## 食品廃棄物リサイクルで電力と肥料の供給に貢献

JFEエンジニアリングは、多様な事業ポートフォリオを活かして、収益基盤を一層強化するとともに、サーキュラーエコノミーの実現を通じて事業領域を拡大していきます。

この中でも食品リサイクル事業は成長が見込まれる分野であり、同社グループ会社のJバイオフーズリサイクルは、食品廃棄物のメタン発酵により発生したガスを燃料として発電を行うとともに、発酵残渣を肥料として再利用する「ダブルリサイクルループ」のスキームを構築しています。\*図1

■ 図1 食品リサイクル ダブルリサイクルループ



### ① 電力ループ

食品廃棄物から発電した電力は、電力販売を手掛ける同社グループ会社のアーバンエナジーが、法人向け電力メニュー「創電割®」として提供しています。2025年度からは外食事業大手4社（あきんどスシロー、アレフ、ロイヤルホールディングス、物語コーポレーション）が本サービスを導入しております。各社の店舗や食品工場で生じた食品廃棄物を、Jバイオフーズリサイクルをはじめとする全国6拠点のバイオガス発電工場にてメタン発酵、発生したガスで発電した電力を各社へと供給します。\*図2

本サービスは外食産業の食品リサイクル率向上策として評価されており、他の食品事業者へも提案活動を進めています。

### ② 農業ループ

食品廃棄物のメタン発酵残渣から製造される肥料は、協力農家に提供し、農作物の育成に使われています。2022年9月には固形肥料「はまのみのり」、液体肥料「はまのしずく」が農林水産省より肥料登録の承認を受けました。

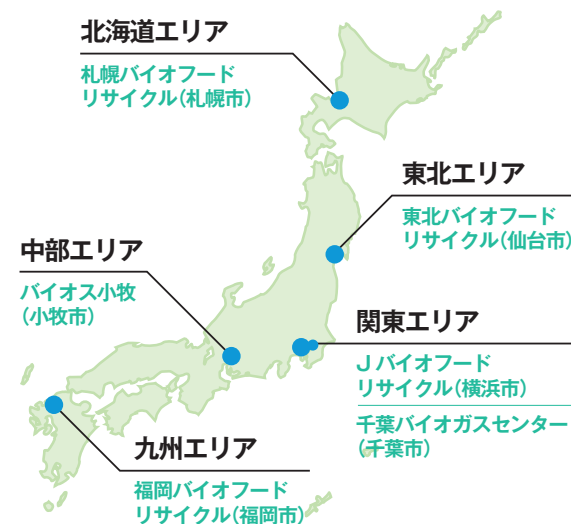
「はまのみのり」は、肥料持ちが良く、とうもろこしなどの

実入りを向上させ、「はまのしずく」は、窒素など農作物の生育に必要な栄養分を含み、葉ネギなどの野菜栽培に効果的であるとして、多数の農家で使用が始まっています。そして育成された農作物が多数の食品工場や飲食店で利用されています。

JFEエンジニアリングは今後もサーキュラーエコノミー実現に向けた取り組みを推進していきます。

※ 創電割…廃棄物から発電した電力を買い取り、廃棄物の発生元施設へ供給する場合に、廃棄物量に応じて電力料金を割引くサービス。新電力としては独自のサービスとして、2017年から開始。

■ 図2 全国6拠点で食品リサイクルを展開





## JFEグループレポート 2025(統合報告書)、 JFEグループサステナビリティ報告書2025を発行

「JFEグループレポート(統合報告書)」は、株主・投資家の皆様にJFEグループの中長期的な価値創造ストーリーをご理解いただくことを目的に、経営戦略、財務情報、ESG(環境・社会・ガバナンス)などの非財務情報を統合的に整理したレポートです。

また、「JFEグループサステナビリティ報告書」は、気候変動問題や循環経済への移行などの課題に対して、JFEグループが取り組むサステナビリティ活動を、ESGの側面から網羅的に紹介しています。

当社ホームページで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

- JFEグループレポート2025
- JFEグループサステナビリティ報告書2025



## 個人投資家向けオンライン説明会動画を配信中



※ 説明動画は  
外部サイトに  
移動します。

個人投資家の皆様に当社グループをより深くご理解いただけるよう、2025年7月にオンライン説明会を開催しました。当日の動画および資料を当社ホームページに公開しておりますので、ぜひご覧ください。

## 会社概要(2025年9月30日現在)

名称	JFEホールディングス株式会社 [英文名称: JFE Holdings, Inc.]
本店所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 電話 03(3597)4321(代表)
設立	2002年9月27日
資本金	1,713億円

## 株主メモ(2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	2,298,000,000株
発行済株式総数	639,438,399株
株主数	404,024名
決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 剰余金の配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
公告の方法 【アドレス】	電子公告 <a href="https://www.jfe-holdings.co.jp/">https://www.jfe-holdings.co.jp/</a>

## 株主通信発行取りやめのお知らせ

本株主通信「JFEだより」は、定時株主総会招集ご通知や当社ホームページとの内容重複、地球環境等への配慮という観点から、今回(第24期中間)をもちまして発行を取りやめることといたしました。これまで株主通信に掲載していました、当社の業績や取り組み等の情報は、引き続き当社ホームページや各種開示物(招集ご通知、統合報告書等)で発信してまいります。

これまでのご愛顧に感謝申し上げますとともに、今後とも株主の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 配当金のお支払について

2025年度中間配当金のお支払開始日は  
12月4日となります。

## 株式のお手続きに関するお知らせ

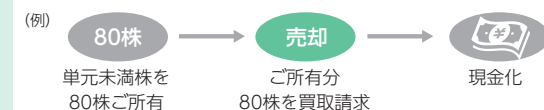
### 単元未満株式の買増・買取制度について

100株に満たない株式(単元未満株式)は市場では売買することはできません。以下の方法にてご所有の単元未満株式を整理することができます。

### 買増請求(買い足して単元株(100株)にする場合) 買



### 買取請求(売却して現金化する場合) 売

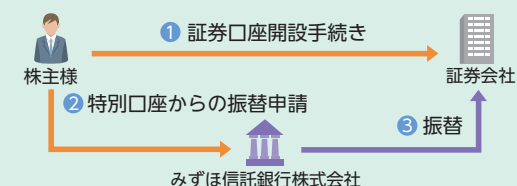


証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引証券会社等にご連絡ください。それ以外の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部(下記)にご連絡ください。

## 特別口座から証券会社等の口座への振替について

特別口座に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式の当社への買増・買取請求を除く)ので、証券会社にご取引口座を開設して、開設された口座に株式を移し替える手続き(振替申請)をお勧めします。

### 振替申請の手続き



お問い合わせ先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
☎0120-288-324(平日9:00~17:00)

# 株主様オンライン工場見学会のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただけるよう、鉄鋼事業をはじめとした当社グループの製造現場をオンラインでご紹介する株主様向けのイベントを企画しています。

## 過去のオンライン工場見学会で ご紹介した主な現場

鉄鋼製造の  
上流工程



形鋼工場



溶接管工場



ペットボトル・  
家電リサイクル  
工場



過去の見学会映像は  
HPにて公開中です。



## 2025年度見学会概要

- オンラインでの鉄鋼製品の製造現場紹介  
(電磁鋼板の加工工程を中心にご紹介)
- 当社代表取締役社長による質疑応答

## 電磁鋼板とは？

自動車、エアコンに搭載されるモーターや配電用の変圧器などに用いられており、「電気」を「磁気」に変え、さらに「ちから(エネルギー)」に変換できるという特長を有した製品です。

自動車の電動化進展、電力需要増大などにより世界的な需要拡大が見込まれており、当社の成長戦略の1つとして積極的に取り組みを推進しています。

当社初公開となる製造現場を、ぜひこの機会にお楽しみください！



製造現場(イメージ)

製品・用途(イメージ)

### 開催日程

2026年2月27日(金) 午後  
28日(土) 午後

詳細は同封のリーフレットを参照してください。

僕も一緒に  
見学するよ。  
株主の皆様  
ご参加を  
お待ちしております！



Jナビくん